

第3回大島町地域公共交通活性化協議会会議結果（要旨）

会 議 名	第3回大島町地域公共交通活性化協議会
開 催 日 時	令和5年10月6日（金）午後1時30分から午後2時45分まで
開 催 場 所	大島町開発総合センター1階 大会議室
開 催 方 法	オンサイト、Web会議システムを利用したオンライン会議によるハイブリット形式
委員出席等	木中会長、長野職務代理、柴田委員、岡田委員、堀江委員、鈴木委員（代理：染谷氏）、下村委員、藤田委員、吉澤委員、鈴木委員、宮本委員、岡山委員、辻委員、平野委員、山本委員、稲葉委員、川島委員、妹尾委員、米澤委員
事務局出席者	船木事務局長、中村事務局員、秋田事務局員
議事・報告	<p>【議事】</p> <p>(1) 地域旅客運送サービスの役割、基本的な方針と施策・事業</p> <p>(2) 目標の検討方針</p>
会 議 資 料	別添のとおり
会 議 結 果	<p>【議事】</p> <p>(1) 地域旅客運送サービスの役割、基本的な方針と施策・事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より資料説明を行った。 ・各委員との意見交換を行った。 <p>(2) 目標の検討方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より資料説明を行った。 ・意見が出なかったため閉会。
出された主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2の4ページの大島高校から波浮方面のバスですが部活に対応してないと思う。部活にも対応してほしいのとテストや、午前中授業、イベントにもぜひ対応していただければと思う。 <p>(事務局：回答)</p> <p>→あくまで検討段階の事業イメージ。まずは計画の策定をし、それ以降に実施期間に沿って事業の内容や進め方を本会議で議論、検討し進めていければと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの自治体さんをお手伝いしていく中で、よくあるのが短期的にできるものと中長期の時間を要するものとの事業の仕分けをしていくという一つの方法になってくるかと思う。例えば向こう1、2年ですぐにはできること、ここにちょっと絞ってやっっていこうとか、ないしは少し時間がかかるので、もう少しいくつかの利害関係者同士の協議を通じて、その中で深めていくとか。例えば、

今、お手伝いをしているところで事業 1-1 に該当するかと思うが、高校生向けに、朝と夕方の時間帯に厚みを持たせて、なるべくバスを使っただき維持をして、空いている時間をどうするかみたいな議論が他自治体では多い。今お手伝いしている自治体では、朝と夕方、夜にかけては路線バスをそのまま運行してダイヤを維持し、日常の時間帯をデマンドに変えるとか、乗合タクシーを運行させる。タクシー会社が 1 社しかないの、そういったことをしてすみ分けをしたり、やり方を少し変えてみたり、そのような実験をやっている自治体もある。

一方で、先ほど部活動の話も出たが、時期的なもので例えばテスト期間とかそういう場合には、少し親御さんの送迎を頑張ってもらうとか、いろんな組み合わせで乗り切っていくというやり方をしているところも多々ある。その辺りの事例を少し追いかけてみることで、ヒントになることがたくさん出てくると思うので、先々こうした事業を個別に深めていこうとしたときには、その辺りの事例をもとに、もう少し検討できる部会みたいところで、議論を進めてみることも良いのではと思う。

一方で、少しソフト的な部分だが、例えば資料 2 の 19 ページのキャッシュレス対応については、比較的、短期で実施できるものが結構ある。機材を導入していくところに対して、どれだけの投資ができるかということになるが、とりわけ来島者に対しては、キャッシュレスはかなり有効である。まずはそういったところに向けてサービスを展開していき、徐々に島民の皆さんに周知をしてもらおう。段階的に進めていくやり方もあるかもしれないと考えている。

この辺りについて事業 6-2 のバスの乗り方教室というところで、これは非常に重要である。これは町と事業者がタッグを組んで、教育現場と、もちろん保護者の方も協力タッグを組んでやるというのが効果的だ。一つ話をすると、とある自治体の団地には高齢化率が 50% を超える団地がある。そのバス会社の社長は、その団地の方たちの免許返納に合わせて、どうしてもバスに乗ってほしいと考えた。だがその住民はバスに乗ったことがない。そこでその高齢者の方に、実際のルートを使ってバスに乗る体験をするという実験を行った。もちろんシミュレーターも使ってもやった。そんなところで乗り方をまず知ってもらい、お金をここに入れてもいいとか、整理券をこう取ればいいのか、タッチ決済の場合はここにタッチすればいいのか。それを何回か練習をしていくと、だんだん慣れてきて乗れるようになる。それでもなかなか乗りづらいといった場合、バスの乗り方を指南する場所が必要だろうということで、学び場のような集会場を作ると提案したら、すぐに作ってくれた。日中はそこに社員が常駐していてバスと一緒に乗り、夜はこの集会所の中が焼き肉屋のようになっている。夜は、料理で稼ぐから良いということで、そういうような仕事の組み合わせをやって、いわゆるバス事業だけではなくて、飲食業も合わせてやるという取り組みもある。

マルシェバスはご存じだろうか。郵便局前であったり、農協さんの前であったり、スーパーマーケットと連携して、その商品を積めるバスに改造をして、運行させる。そうしたら、乗車人員は減るが、満員になることはあまりないので、後部座席の方にそういったマルシェの商品を載せておけるというような、余裕を持たせて上でやってみるとか、いろんな実験をやっている事例がある。そういったものも参考にしつつ、乗り方とそれから学び方と、そして展開の仕方と、そしてそれをビジネスに変えていくというような、いくつかを全部セットにした形で展開している事例というのも実は出てきている。この辺りもやはりそういった部会みたいなものを作って、その中で少し議論してみると良いと思う。こういったものは実はモビリティマネジメントのベースになる。移動支援という形と自分自身が移動するという目的に合わせるだけではなく、産業を作るとか、雇用を生み出すとか、ないしはそれぞれの中でどういう組み合わせがこの場所にフィットするかということ、実験を通じて見ていくというやり方になっていくのだが、もうこれは試していく他ない。少し時間を見て、実験する時間を取ってみることも大事なと思っている。かなり細かくたくさん事業を作っていて、どこから実現できるのかといった部分を踏まえた検討をこれからしていくことになればと思う。かなり色々なメニューを大島町に合わせてアレンジをしているなという印象を持った。これだけでも十分に評価ができると思うので、ぜひ、実現可能性が高いものから優先度を決めていってもらい、町と事業者と、町民で協力体制をとっていただき、実施に向けて動いていただければと思う。

- ・今の話を聞いて、例えば、資料1の10ページの「交通ネットワークに対応した……」のところの(2)検討期間が令和6年度から令和10年度、5年間ずっと検討する形になっていたり、14ページの事業3のコミュニティサイクルや電動キックボードの活用検討のところは、ここも調査検討が6年度から10年度まで5年間かけて検討していく形になっていたりしている。そのあたりはずっと5年間検討し続けるのか、どこかの段階で決定を出すのか。どのように考えているのか。先ほどの実現可能性の話もあったが、実現可能性をどの段階で判断するのか、その辺はどのように考えているのか。

(事務局：回答)

→ご指摘のとおりずっと検討というのは、計画的にあまりよろしくない表現ではないかと思う。ここについてはある程度実施の初年度を横にずらすか、もしくはどこかで実証実験、実施というような標記の方で今後検討したい。

- ・やはり元町港・岡田港は主要路線かなと思う。その他の路線、お客様が少ないところ、または閑散期については、バスはやはり大型輸送なので、多くのお客様が利用しやすいところを運行した方が良いというところはある。代替というのは今、考えなくてはいけないところだと思う。突発的に小型化したことにより利用者が途中のバス停で乗れず、ジェット船に間に合わない場合があるの

	<p>で、その辺を考えながら運行面を考えなければいけないと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・閑散期において元町から波浮へ、そして岡田から大島公園の間のタクシー料金のことだと思うのですが、グリーンスローモビリティもというふうに記載してあるし、スクールバスを活用してというような形で考えられているようなので、それとの兼ね合いもあるので、できるだけ協力はしていきたいと思う。そういうものをどういうふうにやるかということだと思う。難しくなく、うまく調整すればやれるのではないかと思う。 ・今のところにも少し関連してくるが、資料2の3ページの施策の柱の課題1のところ、「島外連絡交通（航空機、船舶）」ということで記載をさせていただいている。空港は島外からの移動手段ということで島の玄関口になっている。実際飛行機の乗客の定員は満席でも19名とジェット船に比べるとだいぶ少ないが、重要な交通結節点ということで、現況でもタクシーにいろいろカバーしてもらっている状況があるかと思うが、可能であれば空港の利用者といったところも、ほどなくカバーできるように進めていただければありがたい。 ・14ページの電動キックボードのレンタルについてだが、協会と今、計画を進めており、うまくいけば来年の4月以降に10台で、レンタル事業ができる予定。サンセットパームラインから、ぶらっとハウスの交通の便が良くないので、そのあたりをカバーできるように試験的にやってみようということで進んでいる。 ・近頃、テレビでよくやっているが、人材不足、人手不足でバスの運行ができないという会社が全国で多くなっているように思う。当社も乗務員の平均年齢が54歳ということで、あと5年で定年という人がかなり多くなっている。また、来年、再来年に一人ずついなくなっていくというような状態であり、このままいくと、バス路線の確保もまたはやりたいこともできないというようなことが出てくると思っているが、できる限りの対応はしたいと思っている。
問い合わせ先	事務局 大島町政策推進課振興企画係 04992-2-1444